

—和文—

- 1) 天野卓・並河鷹夫・川本芳・吉川欣亮・野澤謙・橋口勉・姚宏兵・張漢雲・許文博・施立明 (1996) 中国雲南省における水牛の遺伝子構成、特に血液型、血液蛋白型及び毛色変異について。在来家畜研究会報告、15: 43-62.
- 2) 川本芳 (1996) 野生動物の持続的利用 サル、畜産の研究、50(1): 165-175.
- 3) 川本芳・並河鷹夫・天野卓・橋口勉・楊鳳堂・劉愛華・許文博・施立明 (1996) 中国雲南省の黄牛にみられる乳蛋白多型。在来家畜研究会報告、15: 79-88.
- 4) 野澤謙・岡本新・川本芳・並河鷹夫・朱静・橋口勉・許文博 (1996) 中国雲南省における猫の毛色変異。在来家畜研究会報告、15: 143-149.

学会発表等

—和文—

- 1) 平井啓久 (1996) 住血吸虫類のゲノムマッピング。第65回日本寄生虫学会 (1996年3月、福岡)。寄生虫学雑誌、45:48.
- 2) 平井啓久・庄野美德・多田功 (1996) サジガメ (*Triatoma infestans*) のrRNA遺伝子の位置変異と不活性化。第48回日本衛生動物学会 (1996年3月、福岡)。衛生動物、47:60.
- 3) 川本芳・本江昭夫・稲村哲也 (1996) ネパールヒマラヤにおけるヤク、牛間の遺伝子流動に関する追跡調査。第91回日本畜産学会 (1996年3月、名古屋)。予稿集 p.188.
- 4) 川本芳・庄武孝義・嶋田誠、Gurja Belay (1995) 東日本のニホンザル集団のミトコンドリアDNA変異。第11回日本霊長類学会 (1995年6月、犬山)。霊長類研究、11(3): 313.
- 5) 嶋田誠・庄武孝義 (1995) グリベットモンキー (*Cercopithecus aethiops aethiops*) 野生集団の遺伝子頻度分布 (予報)。第11回日本霊長類学会 (1995年6月、犬山)。霊長類研究、11(3):312.
- 6) Gurja Belay・庄武孝義・川本芳・嶋田誠 (1995) ニホンザル (*Macaca fuscata*) における保体成分 (C6) の多型。第11回日本霊長類学会 (1995年6月、犬山)。霊長類研究、11(3):323.

系統発生分野

茂原信生・相見 満・高井正成・内田亮子¹⁾

研究概要

A) 古代日本人および日本犬の研究

茂原信生

日本の古代人の研究、ならびに人と密接な関係を持つ古代犬の形質の解析によって、日本人の由来とその移動を直接、間接に追求している。現在はおもに長野県内の古人骨についての研究を行っている。長野市周辺の弥生時代遺跡では、渡来系弥生時代人の影響を日本海側ではじめて確認した。古代犬に関しては、現在弥生時代犬を中心に研究している。

B) 霊長類の咀嚼器官の変化様式に関する研究

茂原信生

霊長類の永久歯の萌出機序に関する研究を行っている。霊長類の大白歯の萌出遅延現象は、ヒトに向かう進化傾向ではなく、霊長類の各分類群に見られる一般的な傾向であることを確認した。

C) 東アジア地域における歯科人類学的調査

茂原信生・高井正成

中央アジア地域の新石器時代人から現代人を対象にした人類学的調査を継続中である。タイ国サイヨック地域で新石器時代の洞穴遺跡の発掘をおこない、日本人の祖先に関するデータの集積をはかっている。また、歯科人類学的調査としてパキスタンやモンゴルの現代人を対象に歯科疾患と歯列の印象採得をおこない、モンゴロイド系諸民族の歯科形態の比較検討と民族の成立に関する研究をおこなっている。

D) 東アジアの真猿類の起源と成立に関する研究

茂原信生・高井正成・國松 豊²⁾・奥千奈美³⁾

中国・タイ・ミャンマーなどに産出する真猿類の化石を検討し、真猿類の起源とそのアジアにおける進化に関する研究を行っている。現在、中国の雲南省とミャンマー国のポンダウン地域にお

1) 1996年3月1日付けで助手に採用、2) 形態進化分野、3) 大学院生

いて化石発掘地の予備調査をおこない、今後の発掘調査の可能性を探っている。

E) インドネシアにおける第4紀霊長類の研究

相見 満

インドネシアの現生及び化石霊長類の系統・進化・分類について、詳細な研究をおこなった。

F) 南アメリカにおける第三紀の化石霊長類の研究

茂原信生・高井正成

(1) ボリビア国のサジャ地域において後期漸新世(約2500万年前)の地層の発掘調査をおこない、最古の広鼻猿類化石*Branisella*の新標本を発見した。この標本の系統的記載をおこないながら、広鼻猿類の起源に関する問題について研究をおこなっている。また同国南部のケブラーダ・オンダ地域において中期中新世(約1500万年前)の地層の発掘調査をおこない、広鼻猿類化石の発見に務めた。

(2) コロンビア国のラベンタ地域において中期中新世(約1500万年前)の地層の発掘調査をおこない、現生の広鼻猿類に近縁なさまざまな化石霊長類の標本を発見した。これらの化石種と現生種との関連性をもとに、現在の広鼻猿類の形態的な多様性について系統分類学的研究をおこなっている。

G) 化石及び現生ヒト上科各種の形態変異に関する研究

内田亮子

(1) 中新世ヒト上科化石の形態変異に関する研究として、ケニア国立博物館で、Rusinga島Kaswanga Primate Site出土の*Proconsul*資料から歯と顎形態のデータ収集をおこなった。Kaswanga資料内の形態変異を、他のRusinga島*Proconsul*資料および現生大型類人猿の変異パターンと比較し、*Proconsul*の種分類と系統関係の研究を続けている。

(2) 現生大型類人猿の頭蓋および歯形態の種内変異パターンの分析とともに、形態変異の要因とその進化過程を検討するため、遺伝的および生態的変異パターンとの比較を試みている。

H) 科学の発達と生命観の変遷に関する学際的研究

内田亮子

生命、人間、自然そして進化概念の歴史的推移と文化的差異を検討する国際日本文化研究センター総合大学院大学共同研究「生命科学と生命観：20世紀における発展と変遷」に参加している。

論文

—英文—

- 1) Matsumura, H., Shigehara, N. & Kanazawa, E. (1996) Dental Characteristics of the Japanese Population. in "Prehistoric Mongoloid Dispersal", by T. Akazawa, et al. (ed.), Oxford University Press. pp.125-136.
- 2) Takai, M. & Anaya, F. (1996) New specimens of the oldest fossil platyrrhine, *Branisella boliviana*, from Salla, Bolivia. *Am. J. Physical Anthropol.*, 99: 301-317.
- 3) Takai, M. & Setoguchi, T. (1995) Preliminary Review of the Specimens and Localities of Platyrrhine Fossils from the Tatacoa Desert, Colombia. *Kyoto Univ. Overseas Res. Rep. of New World Monkeys*, 9: 1-22.
- 4) Uchida, A. (1996) What we don't know about great ape variation. *Trends in Ecol. Evol.*, 11: 163-167.

総説

—和文—

- 1) 高井正成 (1996) : 広鼻猿類の進化と系統分類の現状、人類学雑誌103(5): 429-446.

報告・その他

—英文—

- 1) Aimi, M., & Bakar, A. (1995) Distribution of *Presbytis melalophos* group in Sumatera. *Annual Rep. FBRT Project*, 1:149-153.

—和文—

- 1) 茂原信生 (1995) 寿行地古墳(土浦市)出土の人骨。霞友ゴルフクラブ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集, pp. 33-38、図版12-13.
- 2) 茂原信生・小宮孟・桜井秀雄 (1995) 飯田町

- 遺跡出土の獣骨。「飯田町遺跡」、飯田町遺跡調査会、pp.423-432.
- 3) 茂原信生 (1995) 飯田町遺跡出土の江戸時代犬骨。「飯田町遺跡」、飯田町遺跡調査会、pp.433-437.
 - 4) 茂原信生・松井章 (1995) 草戸千軒遺跡出土の中世犬骨。草戸千軒遺跡発掘調査報告III、pp.289-312.
 - 5) 茂原信生 (1995) 新寺遺跡2次調査出土の江戸時代人骨。「新寺遺跡2次」、春日部市遺跡調査会報告書第8集、pp.44-55,図版11-12
 - 6) 相見満 (1995) 学名の話 (23) ラミドゥス猿人その後。モンキー、261:9-11.
 - 7) 相見満 (1995) 学名の話 (24) 湖畔の猿人—カナポイ猿人。モンキー、263:13-15.
 - 8) 相見満 (1995) 絶滅したヤマイヌの研究。I. F. Report、22:363-364.
 - 9) 高井正成・松野昌展 (1995) 現代モンゴル人の歯科人類学的調査：東アジアのモンゴロイドの進化。ヒマラヤ学誌第6号、p.47-65.
 - 10) 松野昌展・高井正成 (1995) モンゴルの首都ウランバートルにおける歯科疾患調査。ヒマラヤ学誌第6号、p.41-46.
 - 11) 木下實 (1995) ニホンザルのいる風景—白山山麓の春—。モンキー、258・259:36.
 - 12) 木下實 (1995) ニホンザルのいる風景—白山山麓の秋—。モンキー、261:28.
 - 13) 木下實 (1995) ニホンザルのいる風景—白山山麓の夏—。モンキー、260:24.
 - 14) 木下實 (1995) ニホンザルのいる風景—白山山麓の冬—。モンキー、262:28.
 - 15) 木下實 (1995) ニホンザルの四季—志賀高原の春—。モンキー、263:24.
 - 16) 木下實 (1995) ニホンザルの四季—志賀高原の夏—。モンキー、264:24.
 - 17) 木下實 (1995) ニホンザルの四季—志賀高原の秋—。モンキー、265・266:32.

翻訳

- 1) 内田亮子 (翻訳) (1995) 「人はなぜ殺すか—狩猟仮説と動物観の文明史」M.カートミル著、(A View to a Death in the Morning—Hunting and Nature Through History)、新曜社.

学会発表等

—英文—

- 1) Takai, M. (1995) Dental Variability in Fossil New World Monkeys. The 30th Anniversary Yuanmou Man Discovery (Kunming, China, 1995). 「元謀人」発見30周年記念古人類国際学術研究会要旨集—和文—
- 1) 茂原信生 (1995) 霊長類の眼窩形態. 第11回日本霊長類学会 (1995年6月、犬山), 霊長類研究, 11(3):335.
- 2) 相見満 1995.スマトラのコノハザル類の分布. 第11回日本霊長類学会大会 (1995年6月、犬山). 霊長類研究, 11(3):318.
- 3) 高井正成・瀬戸口烈司 (1995) ホエザルの祖先種 *Stirtonia* における性的二型の存在. 第11回日本霊長類学会大会 (1995年6月、犬山). 霊長類研究, 11(3):317.
- 4) 中務真人・高井正成・瀬戸口烈司 (1995) 南米コロンビア、ラ・ベントから出土した *Neosaimiri* の四肢骨化石. 第11回日本霊長類学会大会 (1995年6月、犬山). 霊長類研究, 11(3):316.
- 5) 高井正成・Federico Anaya D.・瀬戸口烈司 (1995) 南米ボリビアの後期漸新統から見つかる最古の広鼻猿類化石の個体変異. 日本古生物学会第144回例会 (1995年6月、横須賀). 講演予稿集、p35.
- 6) 瀬戸口烈司・高井正成 (1995) 南米コロンビアの中期中新世のホエザルの化石に見られる性的二型. 日本古生物学会第144回例会 (1995年6月、横須賀). 講演予稿集、p36.
- 7) 内田亮子 (1995) 現生大型類人猿歯形態の種内変異：化石種分類への意義. 第49回日本人類学会・日本民族学会連合大会 (1995年10月、千葉).

社会生態研究部門

生態機構分野

杉山幸丸・森 明雄・山極壽一・松村秀一

研究概要

- A) 西および中央アフリカに生息する大型類人猿の行動・生態学